

三重県文化審議会から知事への答申 概要

日 時：平成 26 年 9 月 4 日（木） 午後 0 時 4 4 分から午後 0 時 5 4 分

場 所：プレゼンテーションルーム

出席者：（審議会）速水会長、豊田副会長

（県）知事、石垣副知事、高沖部長、田中副部長

速水会長が答申文を読み上げ、答申を知事に手交

（知事）

- ・ 文化審議会委員の皆さんにおかれては、昨年 7 月から約 1 年に亘り、非常に精力的に議論していただき、また、文化交流ゾーンについては別途検討部会を設けてしっかり議論をいただいた。
- ・ 特に、去年は伊勢神宮の式年遷宮、今年は熊野古道世界遺産登録 10 周年、そして三重県総合博物館の開館と、三重県がどういう風に文化行政に携わっていくのか、どういう方向で文化行政を行っていくのか、重要な節目にある中で諮問をし、このたび答申をいただいた。
- ・ 文化審議会の議論の中でも、アクションを、というお話と、また、それを評価、改善して次の取組につなげてほしいというお話があったので、この答申をふまえて県としての方針を策定し、しっかりとアクションにつなげていきたい。
- ・ そして県民の皆さんのアイデンティティや幸福度を高めていく一助としたいので、引き続き、ご指導をお願いしたい。

（速水会長）

- ・ しっかりと議論し、よい形でまとめられたと思う。文化交流ゾーンの関係は難しいところもあるが、しっかりと方向性をまとめられたと思うので、それらも含めて参考にさせていただければ。
- ・ 文化は「人」だと思う。守る人、広げる人、あるいは演じる人を豊かに育てていければという強い思いがある。県も関わりながら人を育てることで、将来、豊かな深い文化が三重県に根づくことになると思う。

（豊田副会長）

- ・ 文化施設の運営形態にはさまざまなパターンがあるが、それぞれの良い点、悪い点を整理できたと思う。
- ・ 今後、各文化施設が、県民の皆さんに対してより効果的な運営をするためには、経営の自由度を高めることと、一体的な運営を実現することが大切だと思うので、是非、そのような視点から運営の仕組みを検討願いたい。

(速水会長)

- ・しっかりとした横串を通して連携を進める必要がある。個々の文化施設がしっかりと取り組んでいただくことはもちろんだが、それらが連携して相乗効果を出すという意識を持ってもらうことが大事。そういうことができるような運営形態を検討してほしい。

(知事)

- ・今回、県が重点的に取り組むべき施策として「人材の育成」と「文化の拠点機能の強化」を答申していただいた。特に文化施設の連携については、しっかりと横串を通して、単発のイベントがつながっているというだけではなく、経営として、文化のグラウンドを構築するための仕組みが必要であるとのこと指摘と受け止めた。

(速水会長)

- ・文化交流ゾーンについては、地域、エリアとしての捉え方も否定しないが、そこから県内全域にどう文化を発信していくかが重要である。もっといえば、県や国を飛び越えてみえの文化を発信するようなエネルギーのある場所にしてほしい。委員の皆さんもそのような意見であった。

(以上)